

平成 28 年度事業報告書

学校法人 鶴鳴学園

はじめに

長崎女子短期大学においては定員割れが続いている生活創造学科の振興が課題であったが、依然として厳しい募集状況であり、3 コース（栄養士コース、ビジネス・医療秘書コース、介護福祉士コース）のうち介護福祉士コースについては、平成 30 年度募集を停止するとの結論に至った。

長崎女子高等学校においては、耐震化工事に本格的に取り組み、第一期工事の改築（新築）工事が行われ新校舎が 12 月に完成した。3 年生にとっては 2 カ月ではあるが、新校舎で学ぶことができた。耐震補強工事（第二期工事）については、当初平成 29 年 6 月末完成予定であったが、減築（校舎上部階の解体）工事の遅れから屋根、内装工事等の全体に遅れが生じ、工期が 2 カ月延長の 8 月末完成に変更となった。

長崎女子短期大学附属幼稚園においては、短期大学附属としての特色を更に鮮明にするため短大の協力のもと連携事業に意欲的に取り組んだ。

I. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業

(1)長崎女子高等学校耐震改築・耐震補強工事

①進入道路工事

所管庁の変更指摘により工期が大幅に遅れていた長崎女子高等学校の進入道路工事は、平成 28 年 6 月 15 日に完了した。

②耐震改築工事（第一期工事）

旧南校舎、西校舎、北校舎を解体してその跡地に建設予定の新校舎（第一期工事）については、平成 28 年 4 月 9 日に起工式を行い、予定どおり平成 29 年 12 月 20 日に完成した。1～3 年全てのクラスルーム、職員室等の管理部門の移設も 12 月中に完了した。

③耐震補強工事（第二期工事）

継続して中央校舎、北校舎西棟、東棟の補強工事に取り掛かり、東校舎の解体工事と併せて全ての工事完了は平成 29 年 8 月末の予定である。

<高等学校平成 28 年度工事分>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
高 校 耐震関係	進入道路工事	(株)西海建設	12,960	追加工事
	校舎耐震改築工事	(株)西海建設	736,632	新築工事
	耐震補強工事	(株)西海建設	240,102	補強工事
	設計監理業務	(株)北澤建築設計	4,050	監理業務
	教室机椅子等	(株)ホウトク他	40,529	備品・移設等
	計		1,034,273	

(2)その他の施設設備関連

<短期大学>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
短 大	教務システム	(株)デュアルキーシステム	7,236	
〃	記念ホール防水工事	(株)協栄興業	1,296	
〃	正門門扉	(有)ヒラタ建設	1,015	
〃	公用車買い替え	(株)フジオカ	986	
〃	空調機更新	ダンレイ中央(株)	1,629	F 実習室等
学生寮	防犯カメラ	(株)イシマル	791	
〃	空調機更新	ダンレイ中央(株)	2,290	寮 29 室分
〃	カーテン取り替え	イトウ(株)	1,458	寮 38 室分
〃	屋上防水工事	(株)協栄興業	2,700	
	計		19,401	

<高等学校>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
高 校	グラウンド整備	(株)西海建設	3,089	
〃	体育館床補修工事	あけぼの建設	900	
	計		3,989	

<幼稚園>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
幼稚園	屋外遊具(ブランコ)改修	(株)九州ひかりのくに	220	
〃	保育用机	(有)キッズ・メイト	299	
	計		519	

<本部>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
本 部	創立 120 周年記念広報	(株)西広	3,000	テレビ広報
〃	学園 120 周年記録冊子	(株)昭和堂	1,134	
	計		4,134	

その他の施設設備合計 (短大+高校+幼稚園+本部) : 28,043 千円

(3)高大連携事業

①高大連携に係る協議 5月20日 於：高校

短大：学長、入試広報室長 高校：教頭、進路指導部長

②高三「長崎女子短大体験学習」7月20日 3年生女子短大コース 86名

「長崎女子高校応援プラン」(ピアノ、歌唱)

8/18・19日短大幼児教育学科を希望する3年生を対象に実施 25名

- ③高二「系列別ガイダンス」9月16日 2年生135名 於：高校
短大教員による講義・実践、学生による体験談・クイズ等を実施
- ④短大「弥生祭」 11月20日 高校龍踊部が短大で演舞
- ⑤高一「長崎女子短大見学訪問」10月7日 1年生129名短大を訪問
高校1年生が4組に分かれ、短大の各学科・コースの授業を全て体験し、
2年次からの系列選択の参考とした。

【参考】長崎女子高校からの短大への入学者数

H27年度：39名 → H28年度：47名 → H29年度：59名

(4)幼大連携事業

- ①短大「地域子育て支援センター」「生涯学習推進室」との連携によるわくわくクラブでの公開講座を計3回開催 延べ60組が参加
- ②短大附属幼稚園としての位置づけをより鮮明にするため、幼児教育学科学生の規定の教育実習に加えて、1年生の体験学習も実施している。

(5)キャンパスの美化・地域での清掃ボランティア

120年を数える女子校としての伝統を深めるためにも校舎内外の清掃・美化活動には日常的に取り組んだ。

(6)短大卒業研究発表会の開催

短大の2年次に取り組んでいる「卒業研究」の発表会を平成28年度も記念ホールに於いて以下の通り開催した。

介護福祉士コース 第15回 (事例研究発表)	日時 平成28年12月13日(火) 10:00~12:30 発表者 2年生15名 来賓者 施設21名、入学予定者1名、保護者1名
ビジネス・医療秘書 コース 第28回	日時 平成29年1月31日(火) 13:00~16:00 発表者 2年生15名 来賓者 高校生12名
栄養士コース 第24回	日時 平成29年2月8日(水) 9:50~12:10 発表者 2年生40名 来賓者 保護者10名、高校生18名
幼児教育学科 第37回	日時 平成29年2月2日(木) 9:30~15:30 発表者 2年生102名 来賓者 施設26名、非常勤9名、保護者68名、卒業生17名、高校生35名

(7)地域との連携及び開放

短大各学科・コースで実施している公開講座、開放講座の他、学校施設の開放にも積極的に取り組んだ。

○短大公開講座（平成 28 年度）

講師	講座名	開催期日	受講数	開催地
橋口 亮	加工品と保存方法 (カステラの製造・保存)	H28.8.19	14 名	本学
田川千秋	介護のエクササイズ	H28.9.1	3 名	本学
中村浩美	懐かしいメロディを奏でよう	H28.9.1	8 名	本学
田川千秋	家庭でできる介護の技術	H28.9.2	6 名	本学
恩地亜希子	フラダンスを踊ろう	H28.9.24	13 名	本学
栄養士コース 教員	長崎の郷土料理（卓袱）	H28.9.24	29 名	本学
濱口なぎさ	Word を使った会報の作り方	H28.10.22	7 名	本学
江頭万里子	子どもマナー講座	H28.11.4	35 名	本学
植木明子	高齢者出前講座	H28.11.15	6 名	小島地区
木下綾子	わくわく講座（読み聞かせ）	H29.2.16	18 名	本学
田川千秋	高齢者出前講座	H29.2.20	15 名	宮摺地区
蛸原正貴	わくわく講座（からだ遊び）	H29.2.27	21 名	本学
本村弥寿子	わくわく講座（親子で遊ぼう）	H29.2.27	21 名	本学

(8)その他短期大学における主な取り組み

- ①九州地区 7 短大での共同研究「コンソーシアム九州」に参加
- ②長崎新聞社との包括的連携に関する協定書を調印 7 月 13 日
- ③長崎県警察署と「安全安心なまちづくりに関する協定」を締結 1 月 11 日
- ④大学間連携共同教育推進事業（留学生との共修・協働による人材基盤形成事業）大中尾棚田火祭りのボランティアとして 14 名参加 10 月 29 日
- ⑤学内研修会（SD 研修）
12 月 26 日 13：30～15：30 情報演習室
研修内容：平成 29 年度から実施する教務システムについて
講師：(株)デュアルキーシステムの担当者 2 名
- ⑥外部委員を招いての自己点検評価委員会の開催
3 月 29 日 10：00～12：00
外部委員 4 名
 - ・天本俊太氏（社会福祉法人みのり会理事長、本学非常勤講師）
 - ・池本仁史氏（長崎新聞社取締役）
 - ・原田宏子氏（長崎市企画財政部 政策監兼都市経営室長）
 - ・林田純雄氏（長崎明誠高等学校長）
- ⑦学内研修（FD 研修）
3 月 21 日 9：00～12：10 221 教室
テーマ：「4 つのポリシーに基づく学習成果の検証と PDCA サイクルによる学習成果の向上」

⑧学内研修 (SD 研修)

3月9日 14:00~15:30 第二情報演習室
内 容 : 学務システムの操作演習 (主として学生の履修登録支援)
指導者 : (株)デュアルキーシステム開発部 藤板氏

(9)高等学校における主な取り組み

- ①第11回「平和コンサート」 音楽部・器楽部
8月9日 旧香港上海銀行長崎支店記念館多目的ホール
- ②第2学年対象「系列別講話」
9月11日 主催：さんぼう 各ホームルーム教室
- ③第2学年「職場見学」
10月14日 13:10~15:30
- ④「キャリア教育講演会」全校生徒学年対象
12月9日 15:05~16:10 「露の団姫 (つゆのまるこ)」第一体育館
- ⑤長崎県オリンピック・パラリンピック啓発事業
1月25日 11:00~12:50 生徒・教職員対象 第一体育館
やり投げ「オリンピックへのチャレンジ」 講師：海老原有希
- ⑥就職内定者セミナー 第3学年 (就職内定者対象)
2月14日 13:30~15:20
講師：安部敦美 (ヤングハローワーク長崎：本校担当) 大視聴覚教室
- ⑦生徒・保護者・教職員による学校評価の実施

(10)附属幼稚園における主な取り組み

- ①子育て支援事業「わくわくクラブ」の実施
- ②プレ入園「2歳児教室」の実施
- ③食育への取り組み
- ④環境整備 (玄関付近の花苗植栽・園庭の芝生保全等) への取り組み
- ⑤保護者・教職員による自己点検評価の実施
- ⑥防犯訓練・避難訓練の年3回ずつの実施

2. 入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数 (平成29年度入試)

<短期大学：入学定員240名>

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	内長崎女
推薦入試	169	169	169	168	54
自己推薦1期	4	4	4	4	1
自己推薦2期	2	2	2	2	
一般前期	13	13	13	9	4
一般後期	1	1	1	1	
社会人	14	14	14	14	
合 計	203(189)	203(189)	203(189)	198(185)	59(47)

()は前年分

※社会人には職業訓練校委託分10名を含む

<高等学校：入学定員 150 名>

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦入試	97	97	97	97 (特待 60)
専願入試	30	30	30	30
併願入試	160	160	156	25(入学率 16%)
一般入試	15	13	10	1 (入学率 10%)
合 計	302(267)	300(257)	293(249)	153(136)

合計欄()は前年分

<幼稚園：収容定数 110 名>

	年少少 (満 3 歳児)	年少 (3 歳児)	年中 (4 歳児)	年長 (5 歳児)	計
進 級 児	—	4	29	34	72
転入・入園児	—	33	8	4	45
合 計	—	37(29)	37(38)	38(41)	112(108)

()は前年分

3. 学生・生徒の就職・進学状況 (平成 28 年度卒業生)

<短期大学>

	卒業数 (A)	就職希望 (B)	就職決定 (C)	未 定	就職率 C/B	就職率 C/A
栄養士	40	37	37	0	100.0%	92.5%
ビジネス	15	14	13	1	92.9%	86.7%
介護福祉士	15	14	14	0	100.0%	93.3%
幼児教育	102	94	94	0	100.0%	92.2%
合 計	172	159	158	1	99.4%	91.9%

<高等学校>

内 訳	卒業数	決 定	未 定	決定率	備 考
進 学	109	109	0	100.0%	
就 職	29	29	0	100.0%	
合 計	138	138	0	100.0%	

Ⅱ. 財務の状況 (3カ年の収支状況)

1. 事業活動収支計算書 (平成 26 年度～28 年度)

○収入の部

(単位：千円)

科 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
学 生 生 徒 等 納 付 金	578,832	555,298	568,903
手 数 料	9,765	8,764	9,381
寄 付 金	1,603	1,598	573
補 助 金	233,840	231,654	241,087
事 業 収 入	69,818	71,255	66,240
雑 収 入	23,025	55,573	43,795
教育活動収入合計	916,883	924,142	929,979

○支出の部

人 件 費	562,295	590,410	568,890
教 育 研 究 経 費	278,942	340,947	339,306
管 理 経 費	120,343	120,790	114,931
借 入 金 等 利 息	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	729	572	26
教育活動支出の部合計	962,309	1,052,719	1,023,153
教育活動収支差額	△45,426	△128,577	△93,174

教育活動外収支差額	41,412	71,582	7,357
特 別 収 支 差 額	△3,396	△47,742	148,014
基本金組入前収支差額	△7,410	△104,737	62,197
基本金組入額合計	△45,459	△83,346	△200,304
当 年 度 収 支 差 額	△52,869	△188,083	△138,107
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	△626,456	△679,325	△867,407
基 本 金 取 崩 額	0	0	53,370
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	△679,325	△867,408	△952,144

※教育活動収支差額は、3カ年共に支出超過である。特に平成 27 年度と 28 年度においては支出超過額が大きくなっているが、高校の耐震化工事に伴う校舎解体費が教育研究経費を押し上げたこと等による。

2. 資金収支計算書（平成 26 年度～28 年度）

○収入の部

（単位：千円）

科 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
学生生徒等納付金収入	578,832	555,298	568,903
手 数 料 収 入	9,765	8,764	9,381
寄 付 金 収 入	1,529	1,532	561
補 助 金 収 入	233,840	231,654	505,973
受取利息・配当金収入	111,411	71,582	20,357
付 随 事 業 収 入	69,818	71,198	66,197
雑 収 入	23,024	55,573	31,004
借 入 金 等 収 入	0	0	0
前 受 金 収 入	116,538	99,172	106,324
そ の 他 の 収 入	37,946	40,364	96,145
資金収入調整勘定	△161,982	△173,285	△325,723
前年度繰越支払資金	2,600,093	2,631,444	2,507,032
収入の部合計	3,620,814	3,593,296	3,586,154

○支出の部

人 件 費 支 出	565,393	592,879	568,890
教育研究経費支出	175,324	254,018	253,477
管 理 経 費 支 出	105,126	107,093	100,668
施 設 関 係 支 出	26,464	134,348	949,081
設 備 関 係 支 出	16,541	7,885	54,012
資 産 運 用 支 出	87,000	67,000	119,754
そ の 他 の 支 出	23,412	15,920	110,350
資金支出調整勘定	△9,890	△92,879	△85,145
翌年度繰越支払資金	2,631,444	2,507,032	1,515,067
支出の部合計	3,620,814	3,593,296	3,586,154

※翌年度繰越支払資金が、平成 28 年度は 991,965 千円減少しているが、これは高校校舎の耐震化工事の支払いによる。

3. 貸借対照表（平成 26 年度～28 年度）

○資産の部

（単位：千円）

科 目		平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末
資 産	固定資産	4,316,874	4,375,746	5,245,912
	有形固定資産	3,359,695	3,355,842	4,136,838
	その他の固定資産	957,179	1,019,904	1,109,074
	流動資産	2,668,543	2,566,135	1,744,521
	合 計	6,985,417	6,941,881	6,990,433

○負債の部・基本金の部・繰越収支差額の部

科 目		平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末
負 債	固定負債	252,074	249,605	236,814
	流動負債	132,061	195,731	194,877
	計	384,135	445,336	431,691
基 本 金		7,280,607	7,363,952	7,510,886
繰越収支差額		△679,325	△867,407	△952,144
純資産合計		6,601,282	6,496,545	6,558,743
負債及び純資産合計		6,985,417	6,941,881	6,990,433

※資産総額には大きな変動はないが、流動資産が減少し、その分固定資産が増加している。

Ⅲ. 法人の概要

1. 学校法人 鶴鳴学園

所在地：〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 1 号

理事長：原田 延介

2. 設置する学校・学部・学科等及び学生・生徒・園児数（H28.5.1 付）

(1)長崎女子短期大学 所在地：〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 1 号

学長：玉島 健二

学科・コース	入学定員	収容定員	1 年生	2 年生	在籍合計
生活創造学科					
栄養士コース	60	120	44	40	84
ビジネス・医療秘書コース	40	80	27	15	42
介護福祉士コース	40	80	7	15	22
幼児教育学科	100	200	112	104	216
合 計	240	480	190	174	364

(2)長崎女子高等学校 所在地：〒850-0834 長崎市上小島 1 丁目 11 番 8 号

校長：小野 良介

学 科	入学定員	収容定員	1 年生	2 年生	3 年生	在籍合計
普通科	150	450	136	135	138	409

(3)長崎女子短期大学附属幼稚園 所在地：〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 2 号
園長：鈴木 賢二

区分	収容定数	3 歳児	4 歳児	5 歳児	在籍合計
3～5 歳児	110	31	39	42	112

3. 理事・監事<平成 28 年度>

理事・監事	氏 名	現 職 等
理事長	原田 延介	理事長
理 事	原田 雄司	副理事長
理 事	玉島 健二	長崎女子短期大学学長
理 事	小野 良介	長崎女子高等学校校長
理 事	田中丸善保	佐世保玉屋株式会社社長
理 事	小原 四郎	株式会社新日本不動産社長
理 事	井口 國雄	株式会社あたご社長
理 事	犬塚 光男	元長崎女子短期大学附属幼稚園園長
監 事	志賀 定義	医療法人清潮会顧問
監 事	平山 寿則	平山税理士事務所所長

4. 理事会の開催状況<平成 28 年度>

開催年月日	主な議案	出席数
平成 28 年 5 月 24 日	①平成 27 年度予算の補正について ②平成 27 年度事業報告について ③平成 27 年度決算報告について ④決算の確定に伴う平成 28 年度予算の補正について ④報告事項 ・ 現況報告 ・ 小島特別奨学基金の運営状況 ・ その他	理事 8 名 監事 2 名
平成 28 年 9 月 28 日	①任期満了に伴う理事(学識経験者)の選任について ②任期満了に伴う監事の選出について ③任期満了に伴う評議員(法人職員)の推薦について ④任期満了に伴う評議員(卒業生)の選任について ⑤任期満了に伴う評議員(学識経験者)の選任について	理事 8 名 監事 2 名
平成 28 年 10 月 1 日	①任期満了に伴う理事長の選任について	理事 8 名 監事 2 名
平成 28 年 10 月 1 日	①平成 29 年度学納金について ②報告事項	理事 8 名 監事 2 名

	<ul style="list-style-type: none"> ・現況報告 ・耐震化工事の進捗状況について ・学園創立 120 周年関係について 	
平成 28 年 12 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ①平成 28 年度予算の補正について ②寄附行為の一部変更について ③長崎女子短期大学学則の一部変更について ④長崎女子短期大学教員の昇任人事について ⑤短大「生活創造学科」の改編計画について ⑥報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・県学事振興課の監査結果について ・文部科学省運営調査による改善状況報告書の再提出について ・現況報告について 	理事 8 名 監事 2 名
平成 29 年 3 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ①短大「生活創造学科」の改編について ②平成 28 年度予算の補正について ③平成 29 年度事業計画について ④平成 29 年度予算について ⑤学園人事について ⑥報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・現況報告について 	理事 7 名 監事 1 名
平成 29 年 3 月 31 日	①平成 28 年度予算の補正について	持ち回り

5. 評議員 17 名 (欠員なし)

6. 評議員会の開催状況 (平成 28 年度)

開催年月日	主な議案	出席数
平成 28 年 5 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ①成 27 年度予算の補正について ②平成 27 年度事業報告について ③平成 27 年度決算報告について ④決算の確定に伴う平成 28 年度予算の補正について ④報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・現況報告 ・小島特別奨学基金の運営状況 	評議員 17 名 (内委任状 3) 監事 2 名
平成 28 年 9 月 28 日	①任期満了に伴う評議員(法人職員)の選任について	評議員 17 名 (内委任状 2) 監事 2 名
平成 28 年 10 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ①任期満了に伴う理事の選任について ②任期満了に伴う監事の選任同意について 	評議員 17 名 監事 2 名
	<ul style="list-style-type: none"> ①平成 29 年度学納金について ②報告事項 	評議員 17 名

平成 28 年 10 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現況報告 ・ 耐震化工事の進捗状況について ・ 学園創立 120 周年関係について 	監事 2 名
平成 28 年 12 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ①平成 28 年度予算の補正について ②寄附行為の一部変更について ③長崎女子短期大学学則の一部変更について ④長崎女子短期大学教員の昇任人事について ⑤短大「生活創造学科」の改編計画について ⑥報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県学事振興課の監査結果について ・ 文部科学省運営調査による改善状況報告書の再提出について ・ 現況報告について 	評議員 17 名 監事 2 名
平成 29 年 3 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ①短大「生活創造学科」の改編について ②平成 28 年度予算の補正について ③平成 29 年度事業計画について ④平成 29 年度予算について ⑤学園人事について ⑥現況報告について 	評議員 17 名 監事 1 名

7. 学園合同会議

理事長の諮問会議として位置付けられる学園合同会議は、学内理事と監事及び各部門の幹部職員により構成され、定例的に開催している。ここでは学園（理事会）と短大・高校・幼稚園の教学が一体となって問題意識の共有を図っている。日常的な学生・生徒等の動向あるいは保護者からの要望等について共有すると共に、理事会提案事項等の調査研究、企画立案、調整を行うなどの機能をも果たしている。

○構成員

構成員	理事長、学園長、副理事長、監事、短大学長、高校校長、幼稚園長、法人本部長、短大事務局長、高校事務長、法人本部次長
-----	--

○平成 28 年度学園合同会議開催状況

	開催年月日	主な議案・報告事項
第 1 回	平成 28 年 4 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度募集目標及び運営方針について ②生活創造学科改編計画のスケジュール及びコース別収支予測について ③学園 120 周年・短大 50 周年に当たっての学園広報について
第 2 回	平成 28 年 5 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ①5 月 24 日開催理事会評議員会議案について <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年度予算の再補正について ・ 平成 27 年度事業報告について ・ 平成 27 年度決算報告について ・ 決算の確定に伴う平成 28 年度予算の補正

		<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況報告について ・小島奨学基金の運営状況について
第3回	平成28年6月15日	<p>①平成29年度募集に向けた取組みについて</p> <p>②部門別報告事項について</p> <p>③その他</p>
第4回	平成28年7月20日	<p>①平成29年度募集に向けた取組みについて</p> <p>②部門別報告事項について</p> <p>③高校耐震化工事の進捗状況について</p>
第5回	平成28年9月21日	<p>①9/29開催の理事会評議員会議案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任期満了に伴う理事・監事の選任について ・任期満了に伴う評議員の推薦・選任について ・任期満了に伴う理事長の選任について ・平成29年度学納金について ・現況報告について ・高校耐震化工事の進捗状況について ・その他 <p>海外語学研修の件について</p> <p>学園創立記念行事について</p>
第6回	平成28年10月19日	<p>①平成29年度募集状況について</p> <p>②部門別報告事項について</p>
第7回	平成28年11月14日	<p>①平成29年度募集状況について</p> <p>②部門別報告事項について</p> <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県私学振興課の監査について ・予算の執行状況について
第8回	平成28年12月7日	<p>①12/14開催の理事会・評議員会議案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度予算の補正について ・寄附行為の一部変更について ・長崎女子短期大学学則の一部変更について ・長崎女子短期大学教員の昇任について ・現況報告について ・短大「生活創造学科」の改編計画について
第9回	平成29年1月18日	<p>①短大生活創造学科の改編について</p> <p>②平成29年度募集見込みについて</p> <p>③部門別報告事項について</p>
第10回	平成29年2月22日	<p>①平成29年予算の編成方針について</p> <p>②平成29年度募集見込みについて</p> <p>③部門別報告事項について</p>
第11回	平成29年3月17日	<p>①3月22日3開催の理事会・評議員会議案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎女子短期大学「生活創造学科」の改編

		について ・平成 28 年度予算の補正について ・平成 29 年度事業計画について ・平成 29 年度予算について ・学園人事について ・現況報告について
--	--	--

8. 教職員 (H28.5.1 付)

		理事長・学園長 副理事長	短大	高校	幼稚園	本部	合計
教 員	専任		21	15	8		44
	特専・常勤		5	12			17
	非常勤		43	8	1		52
職 員	専任	3	18	4	3	5	33
	非常勤		7	3			10
合 計		3	94	42	12	5	156

9. 建学の理念・教育目標

(1) 建学の精神

－ 鶴九臯に鳴きて声天に聞こゆ －

中国の古典「詩経」の小雅・鶴鳴篇の中の一節で、本学園の建学の精神である。鶴は、人に知られない山奥の沢辺で鳴いても、その声は遠くまで達するという意味であり、この詩句には深い人間的意味が込められている。

社会の中で人に知られなくても、地味だが現実に根ざして誠実に生き、学びつづけている人は、深い谷間で鳴く鶴の声が、やがて天の高みまで響くように、必ず人々から高く評価されるようになるということである。

本学園では、深い誠実な生き方を示す「至誠」を基本として、人間教育を大切にし、「品性」を涵養する学園を創造しつづけている。

(2) 短大の教育理念・教育目標・学位授与の方針

○教育理念

創立以来、輝く女子教育の伝統と歴史の上にたち、建学の精神に基づいて、深い学理の探求と優れた技術の練磨とによって、社会の平和と幸福の増進に寄与し、自立性をもつ現代女性の育成を使命とする。

○教育目標(学訓)：「尽心・創造・実践」

尽心・創造・実践は、建学の精神と教育理念に基づいて生まれたものである。即ち、常に至誠の心をもって事に当たり、「もの・こと」の本質を見つめつづけ、古き慣習にとらわれず、より良きもの、より高きものを創ることに努め、かつこれを単なる理念にとどめることなく実践することを意味する。

○学位授与の方針

教育目標（学訓）と学修成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者。これにより社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士の学位を授与する。

(3)高校の校訓・教育方針・教育目標

○校訓：「真心・創意・共生」

○教育方針

創造的意志を大切にし、豊かな教養と人間性を育むとともに国際的視野に立ち、共に生きる思いやりの心を有する女性の育成を目指す。

○教育目標

- ①生命の尊さを学び、優しい心を育てる。
- ②自然と環境を愛し、人間尊重の精神を育てる。
- ③清らかな心を育て、品性の向上に努める。
- ④基本的な生活習慣を確立させ、精勤を奨励する。
- ⑤学業を大切にし、進路目標の達成に努める。
- ⑥個性を伸ばし、感性豊かな表現力を育てる。
- ⑦ねばり強く取り組む気力・体力を育てる。
- ⑧校内の美化と地域・社会への奉仕に努める。
- ⑨生徒会活動や部活動の活性化に努める。
- ⑩多文化との交流を深め、国際的視野を広める。

(4)附属幼稚園の教育目標

豊かな学園環境の中で、たくましく、やさしい、思いやりの心を大切に育てる。

- いのちを大切にし「ありがとう」の言える子ども
- 明るく元気にあいさつのできる子ども
- 表現豊かで創るよろこびをもつ子ども
- 友だちと仲よく遊べる子ども
- あきらめずやりぬこうとする子ども

10. 学園の沿革

年 月	事 項
1896(明治 29) 年 10 月	長崎女子学院を創立（市内出来大工町 27） 新潟県出身の笠原田鶴子が、欧米視察のため長崎に立ち寄った折、外国との交流のある長崎でありながら意外と女性の地位が低いことを痛感し、欧米視察を断念して、女子教育に情熱を燃やすことを決意した。 教師 4 名、生徒 2 名でのスタートであった。
1901(明治 34)年 4 月	伊良林町 77 番戸に移転、校名を「鶴鳴女学校」と改称 教師 8 名、生徒 50 名 「鶴鳴」の由来は、中国の詩経「鶴九臯に鳴いて声天に聞こゆ」の句による。また創立者笠原田鶴子の名に因んだものであった。

1906(明治 39)年 3 月	原田豊一第 2 代校長に就任
1912(明治 45)年 4 月	「鶴鳴実科高等女学校」と改称、定員 250 名
1918(大正 7)年 3 月	原田アサ第 3 代校長に就任
1920(大正 9)年 5 月	「鶴鳴高等女学校」に改称
1921(大正 10)年 2 月	校舎を現在地の上小島に移転
1925(大正 14)年 1 月	原田アサ校長、ロンドン留学（昭和 3 年帰国）
1947(昭和 22)年 4 月	鶴鳴中学校設置
1948(昭和 23)年 4 月	学制改革で「鶴鳴女子高等学校」と改称（普通科）
1951(昭和 26)年 3 月	学校法人鶴鳴学園と組織変更 原田アサ初代理事長に就任
1951(昭和 26)年 4 月	「商業科」を増設
1952(昭和 27)年 4 月	鶴鳴幼稚園が高校敷地内に開園、原田アサ初代園長に就任
1959(昭和 34)年 10 月	鶴鳴中学校廃止
1960(昭和 35)年 6 月	原田鶴代第 2 代理事長に就任
1960(昭和 35)年 12 月	原田寅次郎第 4 代校長に就任
1960(昭和 35)年 12 月	原田寅次郎鶴鳴幼稚園第 2 代園長に就任
1966(昭和 41)年 4 月	鶴鳴女子短期大学開学（家政科） 原田寅次郎初代学長に就任
1966(昭和 41)年 4 月	旭が丘鶴鳴幼稚園開園（弥生町） 原田寅次郎初代園長に就任
1966(昭和 41)年 10 月	学園創立 70 周年記念式典を挙行
1967(昭和 42)年 4 月	短大の家政科を家政専攻と食物栄養専攻に分離増設
1969(昭和 44)年 4 月	鶴鳴女子短期大学を長崎女子短期大学に改称
1970(昭和 45)年 4 月	短大の家政科家政専攻を家政専攻と被服意匠専攻に分離増設
1970(昭和 45)年 6 月	短大の学生募集低迷のため次年度の学生募集停止の決定をなす
1970(昭和 45)年 11 月	短大の学生募集再開
1970(昭和 45)年 11 月	長岡達第 2 代学長に就任
1970(昭和 45)年 12 月	川崎周之第 5 代校長に就任
1970(昭和 45)年 12 月	法人本部を設置
1971(昭和 46)年 4 月	原田慶子鶴鳴幼稚園第 3 代園長に就任
1971(昭和 46)年 8 月	原田延介第 3 代理事長に就任
1972(昭和 47)年 1 月	長岡達旭が丘鶴鳴幼稚園第 2 代園長に就任
1972(昭和 47)年 1 月	川崎周之鶴鳴幼稚園第 4 代園長に就任
1973(昭和 48)年 4 月	短大に幼児教育学科を増設
1973(昭和 48)年 4 月	原田延介鶴鳴幼稚園第 5 代園長、旭が丘鶴鳴幼稚園第 3 代園長に就任
1975(昭和 50)年 10 月	学園創立 80 周年記念式典を挙行 初代理事長原田アサ胸像建立
1977(昭和 52)年 9 月	短大体育館が完成
1978(昭和 53)年 4 月	藤田源次郎第 6 代校長に就任
1979(昭和 54)年 1 月	短大に新学生寮「若竹寮」完成
1979(昭和 54)年 4 月	原田延介第 3 代学長に就任

1979(昭和 54)年 4 月	原田慶子学園長に就任
1980(昭和 55)年 4 月	太田多美子鶴鳴幼稚園第 6 代園長に就任
1980(昭和 55)年 4 月	山川雅雄旭が丘鶴鳴幼稚園第 4 代園長に就任
1982(昭和 57)年 4 月	短大の家政学科家政専攻と被服意匠専攻を統合し生活文化専攻を新たに設置
1983(昭和 58)年 4 月	稲永侑三旭が丘鶴鳴幼稚園第 5 代園長に就任
1984(昭和 59)年 3 月	旭ヶ丘鶴鳴幼稚園の園舎が短大敷地内に新築移転
1984(昭和 59)年 4 月	稲永侑三鶴鳴幼稚園第 7 代園長に就任
1985(昭和 60)年 4 月	長谷川信第 4 代学長に就任
1985(昭和 60)年 4 月	長谷川信第 7 代校長に就任
1985(昭和 60)年 10 月	学園創立 90 周年記念式典を挙行
1988(昭和 63)年 4 月	短大家政学科を生活科学科に生活文化専攻を生活情報専攻に改組
1988(昭和 63)年 4 月	法人本部を短大内に移転
1990(平成 2)年 4 月	菊谷元資第 5 代学長に就任
1990(平成 2)年 4 月	前田英昭第 8 代校長に就任
1993(平成 5)年 2 月	高校の校舎・体育館の外壁全面改装工事完了
1994(平成 6)年 4 月	江副功第 9 代校長に就任
1994(平成 6)年 4 月	前田英昭鶴鳴幼稚園第 8 代園長、旭が丘鶴鳴幼稚園第 6 代園長に就任
1994(平成 6)年 10 月	短大の新校舎完成 (100 周年の先駆け工事)
1995(平成 7)年 4 月	中西弘樹第 6 代学長に就任
1996(平成 8)年 10 月	学園創立 100 周年記念式典 記念事業として高校第二体育館新築・グラウンド整備工事が完成
1997(平成 9)年 4 月	鶴鳴女子高等学校を長崎女子高等学校に改称 進路別コースがスタート
1997(平成 9)年 4 月	鶴鳴幼稚園を長崎女子短期大学附属第一幼稚園に、旭が丘鶴鳴幼稚園を長崎女子短期大学附属第二幼稚園に改称
1998(平成 10)年 4 月	田中正明第 10 代校長に就任
2000(平成 12)年 4 月	田中正明第 7 代学長に就任 (校長兼務)
2000(平成 12)年 4 月	柳原邦弘長崎女子短期大学附属第一幼稚園第 9 代園長、第二幼稚園第 7 代園長に就任
2001(平成 13)年 4 月	短大の生活科学科に生活福祉専攻 (介護福祉士養成) を設置
2002(平成 14)年 4 月	犬塚光男第 11 代校長に就任
2004(平成 16)年 4 月	原田延介理事長 第 12 代校長を兼務 (犬塚光男副校長) 長崎女子高等学校「商業科」を廃止 長崎女子高等学校入学定員変更 (500→200)
2004(平成 16)年 4 月	長崎女子短期大学附属第一幼稚園と第二幼稚園を統廃合し、長崎女子短期大学附属幼稚園に統一 (第一幼稚園休園)
2005(平成 17)年 4 月	犬塚光男長崎女子短期大学附属幼稚園第 10 代園長に就任
2005(平成 17)年 9 月	短大 1 号館外壁全面改修工事完了 短大校舎と学生寮食堂連絡通路工事完了

2005(平成 17)年 10 月	財団法人短期大学基準協会の第三者評価訪問調査 10 月 20 日・21 日
2006(平成 18)年 3 月	財団法人短期大学基準協会の第三者評価において「適格」認定
2006(平成 18)年 4 月	馬場正典第 13 代校長に就任
2007(平成 19)年 4 月	長崎女子高等学校入学定員変更 (200 名→170 名)
2008(平成 20)年 4 月	江副功第 8 代学長に就任
2008(平成 20)年 4 月	柳川伸一第 14 代校長に就任
2009(平成 21)年 6 月	奈良県の奈良佐保短期大学と相互評価締結について調印
2010(平成 22)年 4 月	短大の生活福祉専攻を「介護福祉専攻」に名称変更
2010(平成 22)年 4 月	短大が奈良佐保短期大学と相互評価を実施
2010(平成 22)年 8 月	短大が文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」採択
2011(平成 23)年 3 月	長崎女子短期大学附属第一幼稚園廃園
2011(平成 23)年 3 月	高校第一体育館・短大学生寮の耐震化工事が完了
2011(平成 23)年 4 月	短大の生活情報専攻を「生活総合ビジネス専攻」に名称変更
2011(平成 23)年 4 月	鈴木賢二長崎女子短期大学附属幼稚園第 11 代園長に就任
2011(平成 23)年 10 月	学園創立 115 周年記念演奏会―掛屋剛志ピアノコンサート―
2012(平成 24)年 9 月	財)短期大学基準協会第三者評価評価委員 4 名が現地調査
2013(平成 25)年 3 月	(財)短期大学基準協会第三者評価 2 回目の「適格」認定
2013(平成 25)年 4 月	小野良介第 15 代校長に就任
2013(平成 25)年 8 月	高校龍踊部が全国総文祭優秀校東京公演に県代表として出場
2013(平成 25)年 9 月	短大トイレ全面改修工事完了
2014(平成 26)年 4 月	浦川末子第 9 代学長に就任
2014(平成 26)年 4 月	長崎女子短期大学生活科学科を生活創造学科に名称変更、併せて専攻を廃止しコース制に改組 (栄養士コース定員減 80→60)
2014(平成 26)年 4 月	長崎女子高等学校の入学定員減 (170→150)
2015(平成 27)年 6 月	長崎女子高等学校進入道路工事着工
2015(平成 27)年 7 月	文部科学省運営調査
2015(平成 27)年 12 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事に伴う校舎解体工事に着手
2016(平成 28)年 4 月	玉島健二第 10 代学長に就任
2016(平成 28)年 4 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事(第一期工事)着工
2016(平成 28)年 6 月	長崎女子高等学校進入道路工事完了
2016(平成 28)年 12 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事(第一期工事)完了

IV. 今後の課題について

入学年齢人口の減少という厳しい運営を強いられる状況下で、学園の存続を如何に図っていくかが大きな課題である。何より短期大学、高等学校、幼稚園を擁する総合学園として相互の連携を一層強化し、地域での存在感を高めていかなければならない。

短期大学においては、生活創造学科の「栄養士コース」「ビジネス・医療秘書コース」「介護福祉士コース」が厳しい募集状況にあり、特に定員を大きく下回る「介護福祉士コース」については、平成30年度募集を停止せざるを得ない状況に至った。「ビジネス・医療秘書コース」についても次年度の募集結果で存続を判断することになる。当面、幼児教育学科と生活創造学科の2学科2コース体制での募集に全力を挙げなければならない。

高等学校においては普通科総合選択制高校としての特色を鮮明にすると共に、短期大学との連携教育を中心とした進路支援教育・キャリア教育を地域に定着させることが課題である。耐震改築工事終盤に入り、施設設備の充実も進んでいる。幼稚園においては短大の附属幼稚園として近隣地域に愛される園づくりが課題である。

5年後に迎える学園創立125周年に向け教職員一丸となって取り組んでいきたい。

以上